



平成25年 3月29日
国土交通省中部地方整備局
木曾川上流河川事務所

「長良川河川防災ステーション」の整備計画が承認されました

岐阜県岐阜市早田地区に整備予定の「長良川河川防災ステーション」の整備計画について、平成25年3月29日付けで承認されましたのでお知らせします。

「長良川河川防災ステーション」の概要については別紙1のとおりです。
今後、岐阜市と連携を図りながら、平成27年度の完成を目標に整備を進めていく予定です。

また、本件については、国土交通省本省においても記者発表しています。
(別紙2)

配布先：岐阜県政記者クラブ

問い合わせ先：国土交通省 中部地方整備局

木曾川上流河川事務所

副所長 上野 広志

TEL (058) 251-1321

FAX (058) 251-4301

1. 概要

木曾川水系長良川は、昭和51年9月洪水により堤防が決壊し、甚大な被害が発生。また、近年においても、平成2年、平成11年、平成16年洪水において、沿川各地で浸水被害(内水)や、河岸洗掘等の被害が発生しています。

流域内には岐阜市を抱え人口及び資産も多いことから、破堤等が発生した場合は、甚大な被害が想定されます。

よって、被害を最小限に抑えるため、迅速に水防活動及び緊急復旧活動を行う拠点として、河川防災ステーションを岐阜市早田地区に整備するものです。

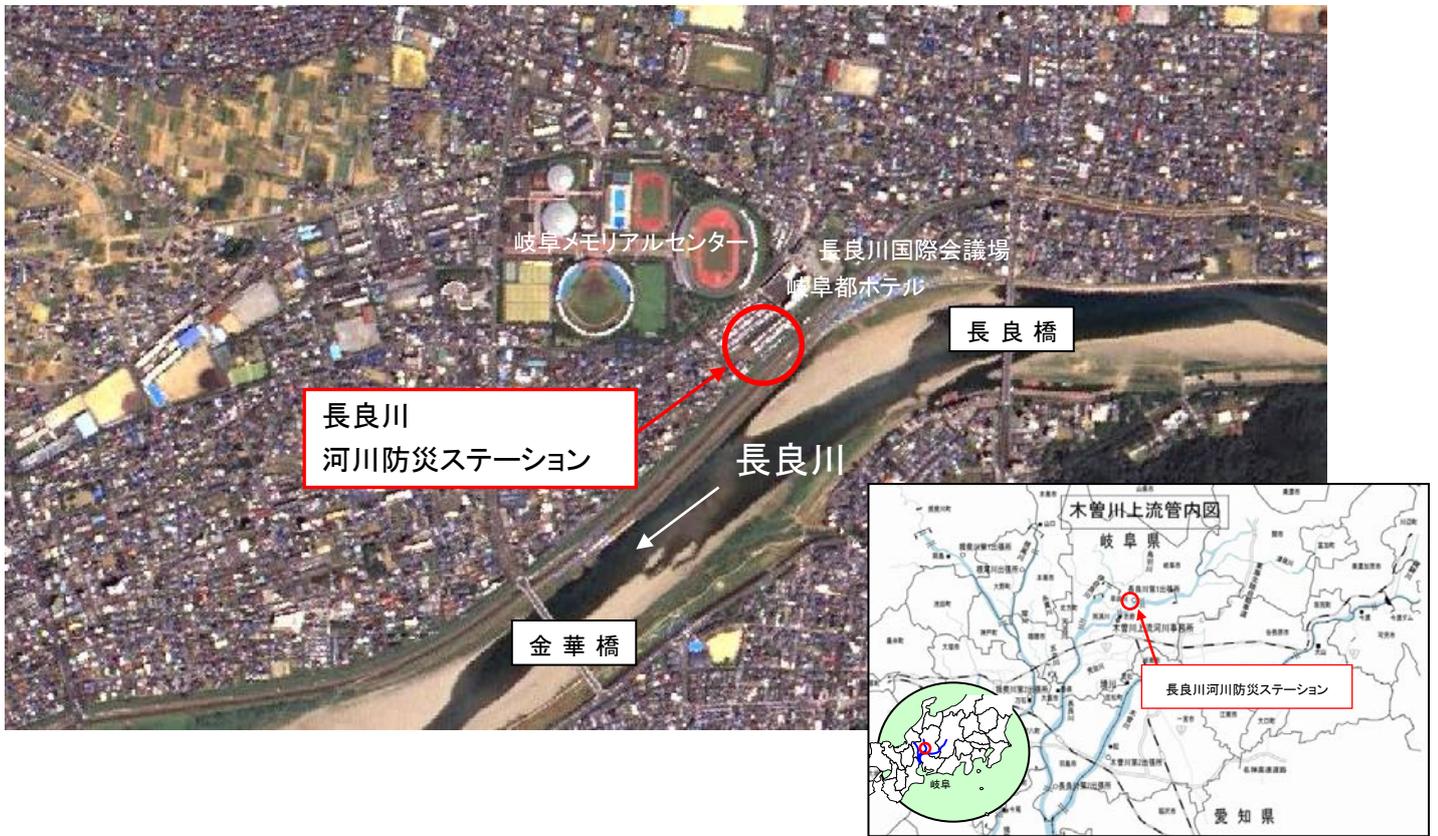
また、平常時には、地域の人々のレクリエーションや防災学習の拠点として利用するとともに、健康づくりの拠点としての活用が可能となります。

2. 整備内容

国において、水防作業ヤードや土砂、根固めブロックなどの緊急復旧活動に必要な資材の備蓄等を行い、岐阜市においては、水防活動の拠点となる水防センターの整備を実施するものです。

施設	国土交通省 : 基盤整備、車両回転スペース 岐阜市 : 水防センター【水防活動の拠点施設】
備蓄資材	国土交通省 : 備蓄ブロック、備蓄土砂等

位置図



完成イメージ図



平成25年 3月29日
水管理・国土保全局

平成24年度第2回地域と連携した川づくりに係る計画の登録等について

国土交通省は、「かわまちづくり」計画、水辺の楽校プロジェクト、河川防災ステーション整備計画について登録等を行います。

国土交通省水管理・国土保全局では、地域の個性やニーズに対応した河川事業の一層の展開を図るため、地域との連携によりハードとソフトを一体的に整備する計画であり、その実現に向けて市区町村の役割が大きい計画について登録・承認及びその変更を行っています。

平成25年3月29日付けで登録・承認・変更される計画の概要については別紙の通りです。

問い合わせ先：

国土交通省水管理・国土保全局河川環境課

課長補佐 甲斐 一洋（内線35-442）

代表 03-5253-8111

直通 03-5253-8447

FAX 03-5253-1603

（河川防災ステーション整備計画について）

国土交通省水管理・国土保全局治水課

課長補佐 丸山 準（内線35-516）

代表 03-5253-8111

直通 03-5253-8454

FAX 03-5253-1604

○「かわまちづくり」計画の登録申請箇所一覧（新規10箇所）

都道府県名	市町村名	水系名	河川名	箇所名	事業主体	事業の概要
やまなしけん 山梨県	ふじかわ ちょう 富士川町	ふじかわ 富士川	ふじかわ 富士川	ふじかわ ちょう 富士川町かわ まちづくり	国土交通省 富士川町	富士川町の第1次富士川町総合計画では、魅力を高める地域整備の推進を掲げ「水辺空間活用の推進」を位置づけている。また、増穂町と鵜沢町の合併以前からも、富士川の自然を活かした水辺にふれあう自然観察やレクリエーション等を楽しむコミュニケーション空間として、水辺ブラザ整備を行ってきた。 現在、当該地域周辺では中部横断自動車道の建設が進み、IC及びPAや道の駅の整備による交通や物流に大きな変化が見込まれ、富士川の良好な水辺空間がより重要性を増すとともに、舟運の復活など水辺利用の広がりも期待される。 そこで、新たな交流拠点整備に併せ、町名にも由来した富士川の水辺整備とまちづくりとを一体的に行うことにより、良好な水辺空間を形成するとともに地域活性化を図る。
いばらきけん 茨城県	しろさとまち 城里町	なかがわ 那珂川	なかがわ 那珂川	ちく かつら地区か わまちづくり	国土交通省 城里町	城里町かつら地区は、那珂川の河川空間、御前山を擁し、「関東の嵐山」と称されるなど景観に恵まれており、自然体験（カヌー、キャンプ、ハイキング等）や水辺でのイベントが盛んである。また、当該地区に隣接する道の駅では、地域の農産物販売等で賑わっている。 城里町の「第1次城里町総合計画（後期計画）」では、これらの優れたポテンシャルを活かしたまちづくりを推進することとしており、那珂川の良好な水辺空間を形成するとともに、既存の地域資源である道の駅、御前山等の相乗効果により地域活性化を図る。
おおさかふ 大阪府	やおし 八尾市	やまとがわ 大和川	やまとがわ 大和川	わかばやしちく・お 若林地区・太 おたちく 田地区かわま ちづくり	国土交通省 八尾市	八尾市の南側を流下する大和川は、かつては舟運など地域の発展と密接な関係にあったが、高度経済成長期には全国ワースト1になるほど水質が悪化した。その後、清流ルネッサンス等の取組により平成20年以降は環境基準である5mg/Lを達成するまでになっており、天然アユの遡上がみられるなど自然環境も回復しつつあるところである。 このような中で、河川空間利用の市民ニーズが非常に高まってきており、八尾市第5次総合計画「やお総合計画2020」では、「水辺環境と緑を活かしたうおいのまちづくり」として、自然環境に配慮した親水施設の整備を行うことが位置づけられている。 そこで、既存の大和川河川敷公園及び現在整備中の河川防災ステーションと連携した、水辺とふれあえる空間整備を行うことにより、日常的なレクリエーションや環境教育、防災学習、非常時の水防活動等の利用を行うことで、大和川における総合的な活動拠点とするものである。
おokayまん 岡山県	おokayま 岡山市	あさひがわ 旭川	あさひがわ 旭川	あさひがわ 旭川かわまち づくり	国土交通省 岡山市	岡山市では、「岡山市都市ビジョン」において、「水と緑が魅せる心豊かな庭園都市」を20年後の将来像として位置付けている。岡山駅から徒歩圏に位置し、日本三名園の後楽園や岡山城、旭川を中心とする「岡山カルチャーゾーン」では、水と緑の都心回廊づくりや身近な水辺空間の整備を推進することで中心市街地の活性化を目指している。 また、旭川の堤防治いは花見の時期には毎年10万人前後が訪れる、中国地方有数の桜の名所となっている。近年は老木化が進んでおり、地元を中心とした「旭川さくらみちの桜を守る会」が設立され、募金による延命治療等が行われているが、抜本的には計画的な植替えが必要であり、現在の堤防構造では植樹基準に適合しない状況が問題となっている。 そこで、地域資産である桜並木を保全するとともに、歩行環境の改善を図るため、修景護岸及び歩行空間の整備を行うものである。
くまもとけん 熊本県	くまもとし 熊本市	しらかわ 白川	しらかわ 白川	くまもとえきゆうへん 熊本駅周辺か わまちづくり	国土交通省 熊本市	熊本市では、総合計画等において、白川を「水辺景観形成軸」として位置付け、「水・緑・歴史と出会う場」の形成を進めている。 また、平成23年3月に九州新幹線が開業するとともに、平成23年4月に政令指定都市に移行し、それらと合わせて熊本駅を中心に熊本市の玄関口都市の顔づくりを推進している。 そこで、熊本駅周辺の市街地整備や既存の歴史資源と調和した水辺整備を行うことにより、魅力ある水辺・まち空間を形成するとともに、観光振興への寄与を図る。

都道府県名	市町村名	水系名	河川名	箇所名	事業主体	事業の概要
くまもとけん 熊本県	たまなし 玉名市	きくちがわ 菊池川	きくちがわ 菊池川	たかせちく 高瀬地区かわ まちづくり	国土交通省 玉名市	玉名市では、総合計画等において観光振興を掲げ、菊池川沿いにある裏川水際緑地への観光客誘致や、歴史・自然等を活用した観光ツーリズムに取り組むこととしている。 また、裏川水際緑地を含む高瀬地区では、点在する歴史資源を市民が親しみ誇りの持てる場として、景観に優れたうるおいのある空間の創出や案内機能の充実などにより、活力とにぎわいのあるまちづくりを進めていくこととしている。 そこで、高瀬裏川の整備や既存の歴史資源を活かし、それぞれをつなげる水辺整備を行うことにより、魅力ある水辺・まち空間を形成するとともに、観光振興への寄与を図る。
みやざきけん 宮崎県	のべおかし 延岡市	ごかせがわ 五ヶ瀬川	ごかせがわ 五ヶ瀬川 おおせがわ 大瀬川	ごかせがわ 五ヶ瀬川かわ まちづくり	国土交通省 延岡市	延岡市では、総合計画等において、人と物とが活発に行き交う交流拠点づくり・多彩な産業が織り成す活力のある都市づくりを進めている。 また、競技スポーツの振興に努めながら市民と一体となったアスリートタウンづくりに取り組むとともに歴史遺産や鮎やな等の歴史や文化、観光資源等を活用した観光客の誘致を推進している。 そこで、鮎やなや関連施設と連携した水辺空間やスポーツやイベント等の活動拠点を整備することにより、魅力ある水辺・まち空間を形成するとともに、市民の健康増進や観光振興への寄与を図る。
さがけん 佐賀県	さがし 佐賀市	かせがわ 嘉瀬川	かせがわ 嘉瀬川	にいじちく 尼寺地区かわ まちづくり	国土交通省 佐賀市	佐賀市では、総合計画等において、自然と調和した個性的な美しいまちづくりを基本構想として、嘉瀬川等の自然環境との調和に配慮したまちづくりを進めていくこととしている。 また、尼寺地区周辺では、嘉瀬川を軸にした多数のイベント等が開催されており、さらに歴史的土木構造物である石井樋や地域の風物詩である川上峡のこいのぼりの吹き流しなど、景観保全と環境・観光面の交流、周辺景観と調和した親水性のある身近な水辺空間のネットワーク化を推進している。 そこで、既存の歴史・観光資源を活かし、それぞれをつなげる水辺整備を行うことにより、魅力ある水辺・まち空間を形成するとともに、観光振興への寄与を図る。
さがけん 佐賀県	いまりし 伊万里市	まつうらがわ 松浦川	まつうらがわ 松浦川	こまなきく 駒鳴地区かわ まちづくり	国土交通省 伊万里市	伊万里市では、総合計画等において、固有の歴史や豊かな自然と調和した都市景観の形成を推進することとしている。 駒鳴地区においては、捷水路の整備により旧川となった区間があり、旧川は捷水路の整備前と比べ流れが遅くなり、土砂の堆積や水質の悪化といった河川環境への影響が懸念されている。 そこで平常時においても、ある程度の流れを確保することで豊かな河川環境を保持し、また、水辺に近づきふれあうことができるよう低水路を複断面形状とし、さらに河川管理や住民の散策がしやすくなるよう管理用通路を整備することで周遊出来るようにする。 このことにより、魅力ある水辺空間を形成するとともに、ホテルなどが生息する豊かな河川環境を活用したふれあい体験観光などを実施することで、観光振興への寄与を図る。
ながさきけん 長崎県	いさはやし 諫早市	ほんみょうがわ 本明川	ほんみょうがわ 本明川	てんまんえいしよちく 天満・永昌地 区かわまちづ くり	国土交通省 諫早市	諫早市では、九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）の開業に向け、諫早駅周辺地区の整備構想等を策定しており、その中で諫早市のシンボルとなっている本明川の自然環境や景観を保全・創出するとともに、本明川を自然や四季を感じる空間として位置付け、「まちなかにある諫早固有の自然や、「諫早万灯川まつり」や「本明川魚つかみ取り大会」等の地域のイベント・祭りといった「諫早らしさ」を引き出すような施設整備や都市景観の創出を図ることにより、「生活するひと」や「訪れるひと」が「ほっ」と癒される空間の形成を進めている。 そこで、駅周辺整備や都市再生整備等と合わせ、諫早市のシンボルとなっている本明川の自然環境や景観を保全・創出する水辺整備を行うことにより、本明川を自然や四季を感じる空間として魅力ある水辺・まち空間を形成するとともに、観光振興への寄与を図る。

○「かわまちづくり」計画の登録申請箇所一覧（変更4箇所）

都道府県名	市町村名	水系名	河川名	箇所名	事業主体	事業の概要
北海道	ななせ ちよう 七飯町	おりとがわ 折戸川	おおぬま 大沼	おおぬまうえんひろば 大沼公園広場 地区かわまち づくり (変更)	北海道 七飯町	七飯町では第4次七飯町総合計画を基に「大沼地域活性化ビジョン」を策定した。大沼は、年間150万人を超える観光客が訪れる大沼国定公園の中心に位置する重要な地域資産であり、町や民間NPO等では、ボランティア活動により大沼の水質改善や湖岸の美化に取り組んでいる。 近年、湖岸及び小島の浸食等により良好な景観が損なわれているほか、軍川の河口においては、土砂の堆積により水深が浅くなり、湖上遊覧に支障をきたしているため、景観などに配慮した護岸整備や、軍川の河道整正等をかわまちづくりにて実施しているところである。 平成21年度以降、台風や低気圧の影響による大雨が相次ぎ、新たに小島の浸食等が進行したため、かわまちづくり計画を変更し、護岸工、河道整正の実施箇所を追加する。
やまがたけん 山形県	ながいし 長井市	もがみがわ 最上川	もがみがわ 最上川	ながいちく 長井地区かわ まちづくり (変更)	国土交通省 長井市	長井市では、「水と緑と花」をまちづくりのコンセプトとしており、「かわ」と「まち」をつなぐフットパス（散策路）や、「まちづくり交付金」「まちづくり基金」等を活用したコミュニティ歩道や案内板の整備、NPO等と連携した河川空間への花畑の創出、まち歩きやイベント等をかわまちづくりとして実施しており、観光客が約3万人増加するなど地域活性化に寄与している。今般、「かわと道の駅」整備の計画が具体化されたことや、観光客の周遊実績をふまえた既設フットパスとの一体性を考慮し、かわまちづくり計画の計画期間及び計画範囲を変更する。
いばらきけん 茨城県	みとし 水戸市	なかがわ 那珂川	さくらがわ 桜川	みと ちく 水戸地区かわ まちづくり (変更)	国土交通省 水戸市	水戸地区かわまちづくりは、「水戸市第5次総合計画 水戸元気プラン」の実現のための様々な分野におけるにぎわい、交流を創出する拠点づくりに向けたリーディングプランに位置づけられている。 水戸市のシンボルである偕楽園・千波湖・桜川を中心とした市街地のエリアにおいては、観光交流拠点形成を目的に、連続する桜川の親水拠点の整備、散策路整備を実施する。また、水戸市の北端を東西に流れる那珂川は、貴重な水と緑の空間を形成しており「川に遊び、親しむスポーツ・レクリエーション空間の創出」を拠点作りのテーマとして、緩傾斜堤防、散策路、階段護岸の整備を実施することにより、スポーツ交流、自然体験の場として活用が可能となる。 今般、関連事業の進捗に遅れが生じたため整備工程の見直しを行い事業工期の延長を行う。
ひょうごけん 兵庫県	しろうし 宍粟市	いほがわ 揖保川	いほがわ 揖保川	いまじゆく なかびる 今宿・中広瀬 地区かわまち づくり (変更)	国土交通省 宍粟市	今宿・中広瀬地区かわまちづくりは、宍粟市の都市計画マスタープランにおいて、「都市計画区域の整備方針として河川周辺の緑化や親水公園等の整備、および自然環境、景観に配慮した護岸改修などを図る」とある。 これにより、揖保川のうち宍粟市内を流れる区域（今宿、中広瀬地区）において、河川改修と併せたアメニティ空間の創出を図り、一体的な整備により山崎地区の中心市街地活性化を進めると共に、親水性を活かした魅力的な水辺等環境空間の創出を図る。 今般、関連事業の進捗に遅れが生じたため整備工程の見直しを行い事業工期の延長を行う。

○水辺の楽校プロジェクトの登録申請箇所一覧（新規1箇所）

都道府県名	市町村名	水系名	河川名	箇所名	事業主体	事業の概要
ひろしまけん 広島県	みよしし 三次市	ごう かわ 江の川	ばせんがわ 馬洗川	みよしし やつぎ 三次市八次水 辺の楽校	国土交通省 三次市	<p>三次市では、平成22年3月に策定した「三次市三川合流部周辺河川環境整備計画」に基づき、三川合流部の個性を活かしたかわまちづくりに取り組んでいる。三川の一つである馬洗川は、地域の観光資源やイベント活動を支える「交流の場」としてだけでなく、地域の「環境学習の場」として、多くの八次地区住民に親しまれている。</p> <p>本事業は、「三次市八次子どもの水辺」水辺の楽校構想に基づく自然体験活動を支援するため、水辺及び周辺の整備を行うものである。</p>

○河川防災ステーションの承認申請箇所一覧（新規1箇所）

都道府県名	市町村名	水系名	河川名	箇所名	事業主体	事業の概要
ぎふけん 岐阜県	ぎふし 岐阜市	きそがわ 木曾川	ながらがわ 長良川	そでんちく 早田地区河川 防災ステーション	国土交通省 岐阜市	早田地区河川防災ステーションは、洪水被害を最小限にするため、長良川上流エリアにおける災害時の緊急復旧活動を行う上で必要な緊急用資材の備蓄の他、岐阜市が設置する水防センターを配置し、洪水時等における円滑かつ効果的な河川管理施設保全活動及び復旧活動を行う拠点として整備する。

○河川防災ステーションの承認申請箇所一覧（変更2箇所）

都道府県名	市町村名	水系名	河川名	箇所名	事業主体	事業の概要
さいたまけん 埼玉県	さいたまし さいたま市	あらかわ 荒川	あらかわ 荒川	にしあすまちく 西遊馬地区河 せぼうさい 川防災ステーション（変 んこう 更）	国土交通省 さいたま市	西遊馬地区河川防災ステーションは、洪水被害を最小限に食い止めるため緊急復旧活動を行う上で必要な緊急用資機材を備蓄する拠点として、平成20年度に河川局長に承認を受け事業着手を行ったものであるが、この度、高規格堤防整備区間外となったことから、資機材のレイアウトを変更し、浸水想定深を考慮した土砂の備蓄が可能となったことを変更する。
とっとりけん 鳥取県	くらよし 倉吉市	てんじんがわ 天神川	てんじんがわ 天神川	てんじんがわ 天神川河川防 災ステーション（変更）	国土交通省 鳥取県 倉吉市	天神川河川防災ステーションは、洪水時等における円滑かつ効果的な河川管理施設保全活動及び緊急復旧活動を行う拠点として、その整備計画を平成22年3月26日付けで河川局長に承認を受け、事業着手を行ったものであるが、この度、市が整備する水防センターについて、天神川水系の広域的な水防事務機関を併設した建物とすることとなったため、水防センターの規模等を変更する。

かわまちづくり支援制度

～良好なまち空間と水辺空間の形成～

観光などの活性化に繋がる景観・歴史・文化等の河川が有する地域の魅力という「資源」や地域の創意としての「知恵」を活かし、地方公共団体や地元住民との連携の下で立案された、実現性の高い河川や水辺の整備・利活用計画による、良好なまちと水辺が融合した空間形成の円滑な推進を図ります。

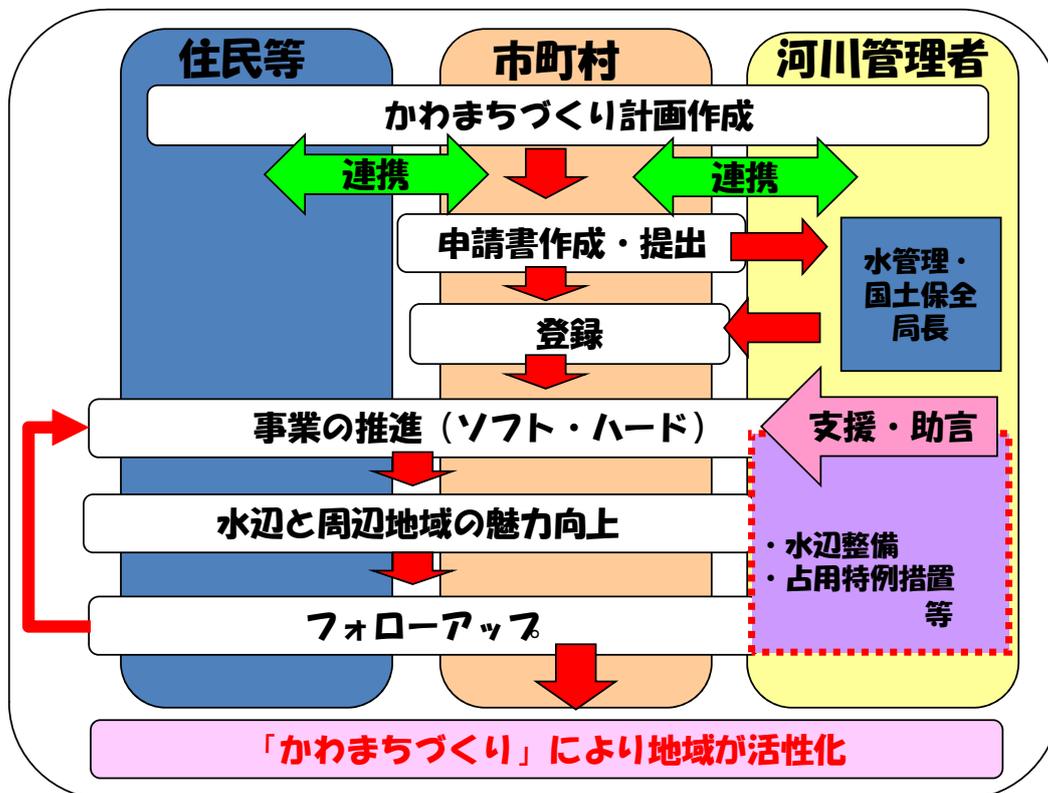
○事業概要

ソフト支援：民間事業者による河川敷のイベント広場やオープンカフェ等への利用制度（都市及び地域の再生等のために利用する施設に係る占用の特例）等を活用、河川管理者として「地域づくりのためのフォローアップ」を積極的に支援。

ハード支援：治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備を通じ、まちづくりと一体となった水辺整備を支援。



管理用道路をフットパスとして活用（最上川）



図：かわまちづくりの流れ

水辺の楽校プロジェクト

～地域一体となった子どもたちの自然体験の場づくり～

河川を活用した環境学習・自然体験活動について

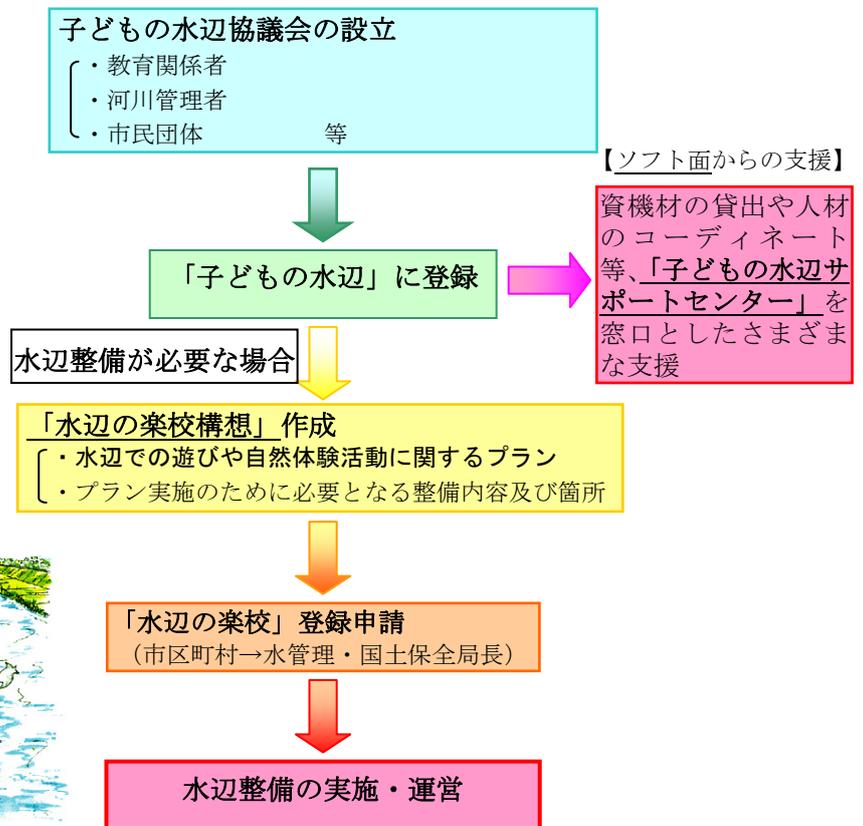
- ・人間と環境の関わりについての理解を深め、豊かな人間性を育てていくために、環境学習や自然体験活動を積み重ねることは重要です。
- ・地域に身近に存在し、自然が残されている川は、貴重な環境学習や自然体験活動の場となっています。
- ・小中学校において「総合的な学習の時間」が本格的に実施されるとともに、完全学校週5日制が開始されるなど、自然体験活動等の場として、川への注目が集まっています。

『「子どもの水辺」再発見プロジェクト』と『水辺の楽校プロジェクト』

- ・市民団体や河川管理者、教育関係者などが一体となって、地域の身近な水辺（「子どもの水辺」）における環境学習や自然体験活動を推進するため、国土交通省、文部科学省、環境省の3省が連携して、『「子どもの水辺」再発見プロジェクト』に取り組んでいます。
- ・「子どもの水辺サポートセンター」において、「子どもの水辺」の登録受付を行うとともに、登録された水辺におけるソフト面（ライフジャケットなどの資機材の貸出、活動をコーディネートできる人材の紹介等）からの支援を行います。
- ・『水辺の楽校プロジェクト』は、安全に水辺に近づくための水辺整備など、「子どもの水辺」において活動を推進するにあたって必要なハード面からの支援を行うものです。



「水辺の楽校」のイメージ図



水辺の楽校のフロー

河川防災ステーション

～地域で守るふれあいのスペース～

「河川防災ステーション」は、水防活動を行う上で必要な土砂などの緊急用資材を事前に備蓄しておくほか、資材の搬出入やヘリコプターの離着陸などに必要な作業面積を確保するものです。洪水時には市町村が行う水防活動を支援し、災害が発生した場合には緊急復旧などを迅速に行う基地となるとともに、平常時には地域の人々のレクリエーションの場として、また河川を中心とした文化活動の拠点として大いに活用される施設です。国土交通省では、今後も地方自治体と連携を図り計画的かつ積極的に整備していきます。

《 「河川防災ステーション」の設置位置 》

設置位置は、次のようなことを考慮して決めます。

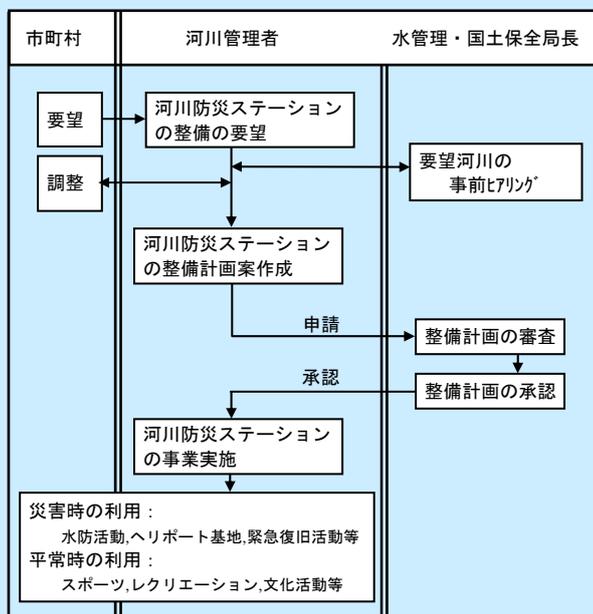
- ① 水防倉庫などの関連施設と河川防災ステーションとの役割分担
- ② 重要水防箇所の状況
- ③ 過去に大きな被害を受け、水防活動や緊急復旧の実績のある区間及びその状況
- ④ 想定される水防活動及び緊急復旧活動に関わる輸送路の状況
- ⑤ 集落や市街地に近く、通常時にも一般の利用が活発に行われ、河川を軸とした文化活動の拠点として活用されるとともに、河川事業の展示活動、研修などが展開できる地域

《 新規に整備を要望する市町村は、最寄りの河川事務所等に相談を 》

「河川防災ステーション」を整備する際は、洪水時の水防活動及び緊急復旧活動の拠点として整備されるものであり、設置位置、規模、事業効果、その他必要事項を記入した整備計画を作成し、河川局長の承認を受ける必要があります。

整備計画の申請は河川管理者が行いますが、水防管理者と一体として整備する施設ですので、市町村と調整が図られた計画が設置要望の必須条件となります。よって、新規要望を検討されている市町村につきましては、河川管理者（直轄河川については国土交通省河川事務所等、補助河川については都道府県土木事務所等）と調整した上での要望をお願いいたします。

防災ステーション実施手順



【災害時の活用】

- ①緊急復旧用資材備蓄基地
- ②災害対策車輛基地
- ③車輛交換場所
- ④ヘリポート
- ⑤洪水時の現地対策本部
- ⑥水防団の待機場所
- ⑦水防倉庫
- ⑧一般住民の避難場所



【平常時の活用】

- ①コミュニティスペースとして地域に提供
- ②水防活動の訓練等に利用
- ③防災学習施設や川の情報発信拠点として水防センターを活用